

オンライン・システム ニュースレター

学術情報センター [〒112-8640 東京都文京区大塚 3-29-1]

目録情報課

図書目録情報係 TEL:03(3942)6983, 6984 FAX:03(3944)7131

雑誌目録情報係 TEL:03(3942)6985, 6986 FAX: 同上

相互協力係 TEL:03(3942)6987, 6988 FAX: 同上

共同利用課 TEL:03(3942)6933, 6934 FAX:03(3942)6797

システム管理課 TEL:043(285)4914, 4915 FAX:043(290)1380

目 次

1. 多言語対応目録システムの運用開始	2
2. 「目録情報の基準」第4版の刊行	2
3. 多言語対応目録システム運用開始に伴う変更点	3
4. JAPAN/MARC (昭和前期) の導入	7
5. 学術雑誌総合目録和文編 2000年版データ作成説明会の開催	8
6. 目録所在情報サービスの2000年問題への対応	9
7. 次期メインシステムの導入	9
8. ILLシステムのISO ILLプロトコル対応	10
9. ILLシステムにおけるIRLINK起動方法の変更	11
10. 連載: 新システム対応クライアント紹介(その6)	12
11. 連載: 総合目録データベースの品質管理事例集(その4: 雑誌編2)	15
12. 複写データ処理センター業務報告(平成11年度上半期)	23
13. NACSIS-ILLユーザー会の料金相殺処理報告(平成11年度上半期)	24
14. 所蔵レコード付替え処理について	25
15. 会議開催報告	26

多言語対応目録システムの運用開始

かねてからお知らせしていたとおり、多言語対応目録システムの運用を、平成 12 年 1 月から開始します。

今回の多言語対応により、今まで目録システムにおいて扱いが保留されていた中国語資料を総合目録データベースに登録することが可能となり、国内に所蔵されている約 700 万冊の中国語資料について、総合目録データベース化の促進が期待されます。

今回の運用開始に伴い、漢字統合インデックスの導入、フィールドの新設など、旧 CAT システムにも関わる変更があります。本号掲載の「多言語対応目録システム運用開始に伴うシステム変更点」をお読みくださるよう、お願いします。

また、運用開始と同時に、中国語資料の入力を支援するために、目録システムに参照ファイルとして CHINA-MARC を導入する予定です（初期データ約 30 万件）。中国語資料の流用入力に活用してください。

なお、運用開始に先立ち、メーカ及び図書館におけるクライアントシステムの開発用環境として、多言語対応テスト用サーバを公開していますので、御活用ください（テスト用サーバの利用については、URL: <http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/INFO/newcat/testserver.html>）。

（図書目録情報係）

「目録情報の基準」第 4 版の刊行

平成 11 年 12 月、目録システム利用マニュアルデータベース編として刊行している「目録情報の基準」の改訂を行い、第 4 版として刊行します。この第 4 版は、平成 12 年 1 月 1 日から適用します。

今回の改訂は、多言語対応目録システムの運用と、中国語資料入力のための規則を整備したことによる、中国語資料の扱いや目録システム上の文字の扱いに関わる変更を反映しています。主な改訂点は、次のとおりです（詳細については、本文の「改訂に当たって」を参照してください）。

(1) データベースの UCS 化に伴う変更点

- ・ 目録システム用文字セットを「JIS X 0221-1995」に依拠した文字・記号へと変更した。
- ・ 特殊文字・記号の扱いを新たにした。

(2) 中国語資料（図書）を入力するための規則の整備に伴う変更点

- ・ 中国語資料・中国名の記述にあたって適用する目録規則は、NCR（日本目録規則）とした。
- ・ 中国語資料及び中国語で表記される名称については、ピンイン表記を「その他のヨミ」として記録することができるようにした。
- ・ 中国語資料のヨミの表記及び分かち書き規則を追加した。

（図書目録情報係）

多言語対応目録システム運用開始に伴う システム変更点

平成 12 年 1 月からの多言語対応目録システム運用開始に伴う、システム的な変更点について解説します。

今回の主な変更点は、次の 4 点となります。

- (1) データベースの UCS 化
- (2) 漢字統合インデックスの使用
- (3) 新設されるフィールド
- (4) CHINA-MARC の導入

図書館側のクライアントが、CAT/ILL システムにどこまで対応しているかによって、これら変更機能が利用できるかどうかが決まります。これを、一覧表にして示します。

	旧 CAT/ILL システム	新 CAT/ILL システム	
		CATP/1.0 クライアント	CATP/1.1 クライアント
(1) データベースの UCS 化			
(2) 漢字統合インデックスの使用			
(3) 新設されるフィールド	その他のヨミ	×	×
	IDENT		
(4) CHINA-MARC の導入	×	×	

新 CAT/ILL システムの CATP/1.1 とは、今回の多言語対応のために改訂した CATP(新 CAT/ILL システムプロトコル)です。表に示すように、図書館クライアント側で多言語対応機能を全て利用するためには、この CATP/1.1 に対応する必要があります。

なお、多言語対応システムの詳細については、下記の技術資料を参照してください (URL: <http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/INFO/newcat/index.html>)。

- ・ CATP/1.1 仕様書 (暫定版)
- ・ CATP/1.1 サーバ (多言語対応サーバ) 実装仕様解説
- ・ データベースフィールド定義

次に、各変更点について解説します。

1. データベースの UCS 化

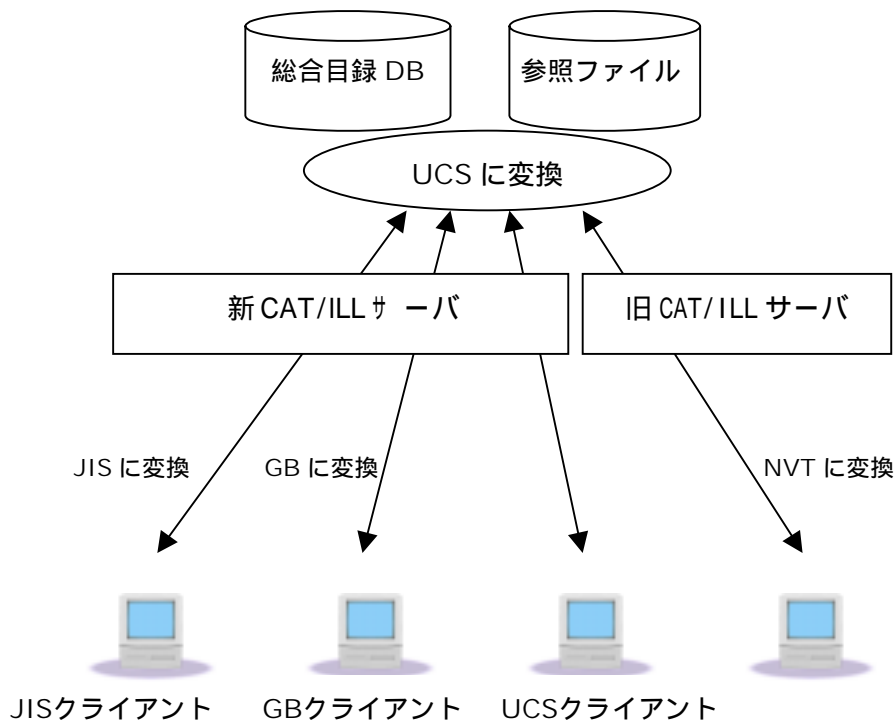
多言語対応データベースで使用する文字セットを、EUC から UCS に変更します。このデータベースで使用する UCS は、以下の仕様となっています（詳細については、次頁を参照）。

- ・従来の EXC 文字を含む
- ・ UCS の実装水準は、「実装水準 3」とする。これは、EXC の全てを表現するのに、合成文字を使用するためである。
- ・ JIS X0208:1997 の漢字包摂規準を採用する。

データベースの文字セット（UCS）とクライアントが使用する文字セットとが異なる場合、サーバ側で文字コード変換を下図のように行います。

この文字コード変換は双方向の変換であり、サーバ側が受信する時とサーバ側が送信する時の両方で実行されます。

利用者のクライアントの文字セットに変換できない文字は、「 Unnnn 」というように、UCS コード値（nnnn の部分）をはさんだ形に変換されます。



多言語対応サーバによる文字コード変換

多言語対応サーバで使用する文字セットについて

1. 目録システム用文字セット

目録システムで扱うことができる文字・記号は次の通りである。

(1) 文字

ISO/IEC 10646-1:1993(JIS X0221-1995) 及び Amendment 1-9 (UNICODE2.0 相当) に規定されている文字 (以下、「UCS」という)。

ただし、漢字については、JIS X0208:1997 の包摂規準を適用する。

このため、異なる区点位置を持っていても、使うことのできない漢字がある。

(例: U9AD9 <はしご高>は、U9AD8 <くち高>に置き換わる)

また、UCS に規定されている文字であっても、実在するクライアントで扱うことができない文字は利用できない (扱える文字は、学術情報センターで確認の上広報する)。

(2) 記号

JIS X0208:1997 に規定されている記号。

(ローマ数字等ここに規定されていないものは、使用できない)

2. 従来の目録システム用文字セットにはあるが、今後使えなくなる文字・記号
次の文字・記号は、多言語対応システムでは使用できない。

(1) 制御文字 6 種: EE21 ~ EE26

(合成開始 / 合成終了 / 上つき開始 / 上つき終了 / 下つき開始 / 下つき終了)

(2) 記号 1 種: DF21

(レジスターマーク:[R]の合成文字)

3. 外字の扱い

1. に含まれない文字・記号は、以下のように扱う。

(1) 基本辞書 (大漢和辞典・広漢和辞典) にある漢字

黒菱で囲み大漢和辞典を利用する場合は、Dの後に検字番号、広漢和辞典を利用する場合は、Kの後に検字番号を記入する。

(例: D00092)

(2) LCの翻字形のある非漢字

黒菱で翻字形を1字ごとに囲んで記入する。

(例: Gh <チェチェン語>, ただし G は, Superior-dot/G)

(3) 基本辞書にない漢字及びLCの翻字形にない非漢字

黒菱二つを連続して入力し、情報源のコピーを学術情報センターに送付し、入力したレコードについて報告する。

(例:)

(4) 図形情報、及び1(2)に含まれない記号

必要に応じて、説明語句に置き換え角がっこに入れる。

さらに、注記において説明を加えることもできる。

4. システム外字が入力された場合の扱い

すべて、U3013 <ゲタ記号(≡)>に置き換わる。

すでに入力済のローマ数字・丸付数字等も、ゲタ記号になる。

2. 漢字統合インデックスの使用

UCS のCJK 統合漢字部分には、約2万字の漢字が含まれており、似た形や同じ意味の漢字が数多くあります。このことによる検索漏れを防ぐため、似た形や同じ意味の漢字を含めて統合検索を可能とするのが、漢字統合インデックスです。

例えば、旧字「音楽」で検索しても、新字「音楽」で検索しても、同一の結果が得られるこ

ととなります。この漢字統合インデクスは、旧 CAT システムでも機能します。

よって、従来、検索漏れを防ぐために作成していた、旧字あるいは新字の「その他のタイトル」や「から見よ参照」は、作成する必要がなくなります（ただし、各図書館で必要な場合は、従来どおり作成してもかまいません）。

3. 新設されるフィールド

今回新設されるフィールドには、大ぶ

JAPAN/MARC (昭和前期) の導入

国立国会図書館で作成された JAPAN/MARC の遡及分のうち、昭和前期分のロードを、平成 11 年 11 月 25 日に完了しました。

(1) 収録対象：国立国会図書館に納本された、発禁図書を含む昭和元年（1926）から昭和 24 年（1949）3 月までに刊行された資料

(2) 収録件数：212,329 件

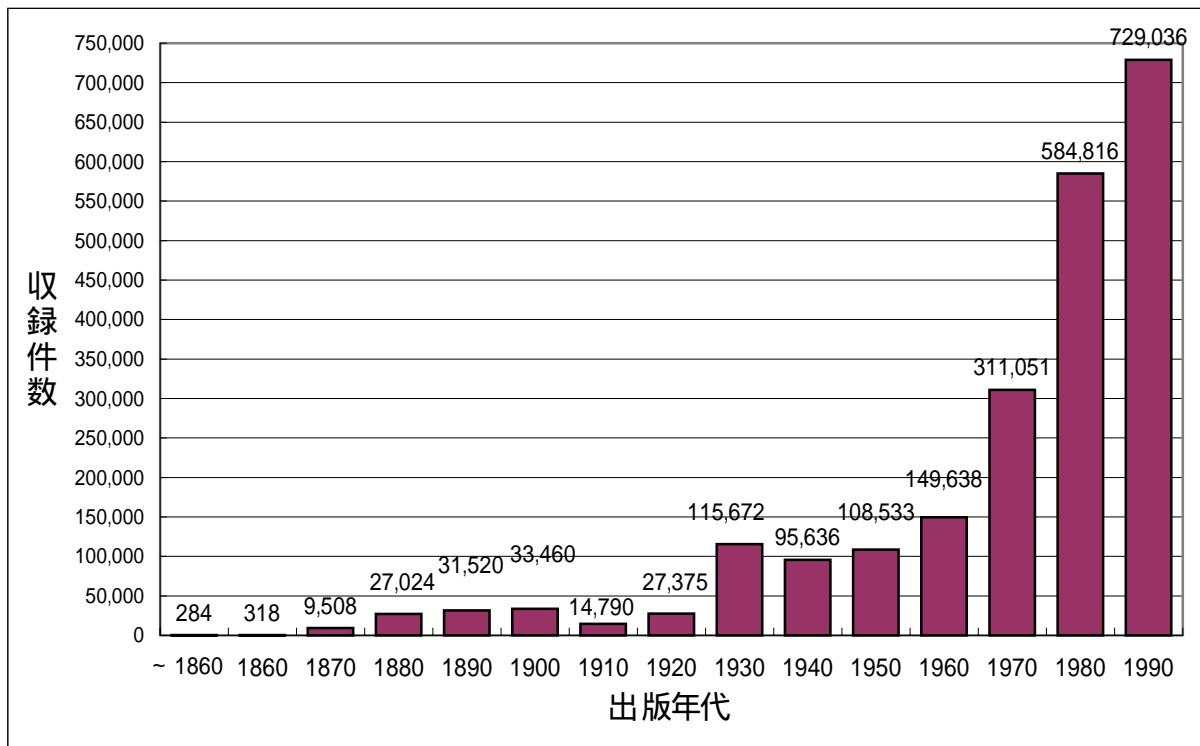
これで、大正期分を除いて、国立国会図書館が所蔵する明治時代以降現在に至る和図書の書誌データの全てが収録されたこととなります。

遡及入力等に御活用ください。

なお、大正期分のデータについては、平成 12 年に導入する予定です。

JAPAN/MARC 収録図書の出版年代による分布

出版年	収録件数
明治以前	299
明治 (1868-)	111,519
大正 (1912-)	7,018
昭和 (1926-)	1,328,775
平成 (1989-)	791,050



(図書目録情報係)

学術雑誌総合目録和文編 2000 年版データ作成説明会の開催

本誌前号 (No.68) でお知らせしたとおり、学術雑誌総合目録和文編 2000 年版データ作成説明会を、平成 11 年 11 月に開催しました。説明会には、各図書館室から合計 575 名の方々に参加いただきました。開催場所、開催年月日、参加者数は、以下のとおりです。

会場名	開催場所	開催年月日	参加者数
東京会場	東京大学大講堂 (安田講堂)	平成 11 年 11 月 5 日 (金)	359 名
大阪会場	大阪府立中央図書館ホール (ライティホール)	平成 11 年 11 月 11 日 (木)	216 名

平成 11 年 11 月 24 日時点で、今回の新版編集に、944 機関、1,347 図書館室が参加いただいています。これは前回の和文編の調査 (平成 7 年 11 月) に比べて機関数で 11% 増となっています。

説明会では、新規参加館および新規担当者を主な対象として、新版編集の意義と概要、作業手順や所蔵データ及び書誌データの記入の仕方を中心としたデータ作成方法の説明、CD-ROM データ作成システムの説明を行いました。

また、この説明会の当日に配布した資料を WWW で提供しています (「学総目データ作成の友」 URL: <http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/INFO/GAKUSO/GAKUSO2000.html>)。

(雑誌目録情報係)

目録所在情報サービスの 2000 年問題への対応

目録所在情報サービスにおけるコンピュータシステムの 2000 年問題への対応は、次のようになっています。

また、障害発生時には迅速な対応がとれるように、平成 11 年 12 月 31 日(金)夜から平成 12 年 1 月 1 日(土)にかけて本センター職員が待機します。

- (1) 1999 年(平成 11 年)3 月までに、アプリケーションの改修を終了しています。
- (2) 1999 年 9 月に、接続館の協力を得て模擬テストを実施し、オンラインシステムが正常稼働することを確認しました。
- (3) ハードウェアは、1999 年 12 月に更新するため、これにあわせて動作確認を行います。
- (4) 学術情報ネットワークの対策が必要な機器について、ソフトウェアバージョンアップ等を実施し、問題がないことを確認しています。

(システム管理課)

次期メインシステムの導入

本誌前号 (No.68) でお知らせしたとおり、平成 11 年 12 月末に、メインシステムの機種更新を実施します。

平成 12 年 (2000 年) 1 月から稼働するシステムの概要は、次のとおりです。

1. システム全般

- ・ UNIX サーバの比率を高くし、さらにオープンシステム化を進めます。
- ・ 今後 5 年間のデータ増加分が収録可能な磁気ディスクを用意します。
- ・ N1 ネットワークの接続を廃止します。

2. 目録所在情報サービス

- ・ 新たに多言語対応サーバを設置し、データベースの内部コードを UCS 対応とします。
- ・ 新 CAT/ILL 対応サーバを強化し、新 CAT/ILL システムへの移行を促進します。
- ・ Webcat サーバの性能を強化し、年々増加するアクセスに対応します。

(システム管理課)

ILL システムの ISO ILL プロトコル対応

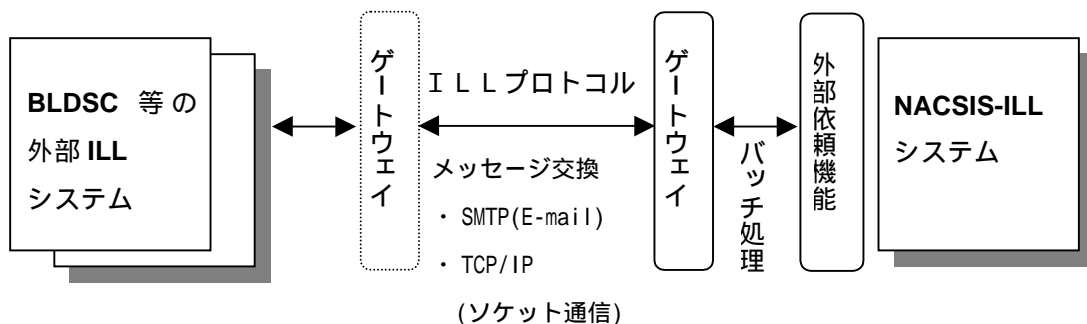
平成 11 年 2 月に行われた「日米両国におけるドキュメント・デリバリー・サービスの改善に関するラウンドテーブル」において、国立大学図書館協議会と全米日本研究資料調整委員会（NCC）との間で「日米両国の ILL 改善のための試行実験プロジェクト」が合意され、その中で、両国の書誌ユーティリティに対し、ISO ILL プロトコル（以下、「ILL プロトコル」という）の実装が要請されました。これを受けて、学術情報センターでは、NACSIS-ILL システムにおける ILL プロトコル対応の検討を行ってきました。

ILL プロトコルは、異なる ILL サービス提供機関同士を相互に接続し、ネットワーク経由で ILL メッセージ交換を実現することを目的とした国際標準規格です。ILL プロトコルについての詳しい情報は、以下の Interlibrary Loan Application Standards Maintenance Agency (ILL ASMA) のホームページを参照してください（URL: <http://www.nlc-bnc.ca/iso/ill/>）。

これまで、NACSIS-ILL 参加館以外への依頼の機能（外部依頼機能）は、機関毎に個別に開発してきました。また、現在の外部依頼機能では、完全に自動化できない部分が残っていました。ILL プロトコルに対応する事でこれらの点も解決します。なお、ILL プロトコル対応の際には、コマンドや状態遷移など NACSIS-ILL システムへの影響はできるだけ少なくしたいと考えています。

ILL プロトコル対応は、海外の ILL 機関でも行われています。対応作業を行っているグループは、IPIG (ILL Protocol Implementors Group) と呼ばれています。IPIG は、1995 年に設立され、1999 年 7 月現在、8 か国から 32 機関が参加しています。British Library, OCLC, RLG などの主要な ILL サービス提供機関や欧米の図書館システムベンダーと共に、学術情報センターも参加しています。現在は、これら海外の ILL 機関とのテスト接続を目標に、システムの改造仕様を検討している段階です。

ILL プロトコル対応の具体的な実現方法等については、決まり次第お知らせします。



ISO ILL プロトコル対応概念図

(相互協力係)

ILL システムにおける IRLINK 起動方法の変更

平成 12 年 1 月 7 日からの新情報検索サービス (NACSIS-IR) の正式サービス開始に伴い、情報検索システムはオープンシステムに移行し、従来の汎用機を利用した情報検索サービスは終了します (学術情報センターニュース No.49 (1999.9) 「新情報検索サービスの概要」)。

このため、ILL システムにおける REQUEST 機能の利用承認処理 (IRLINK) は、接続先及び起動方法を変更することとなりましたので、お知らせします。

なお、今回の変更部分は接続先及び起動方法のみに関わるもので、起動後の各種処理 (登録・追加・削除等) の操作については、以前と同様となります。IRLINK の操作方法及び REQUEST 機能については、「ILL システム操作マニュアル第 4 版」を参照してください (第 13 章, p.153~)。

また、各 ILL システム利用機関には、本記事と同内容の文書を別途送付します。

1. 使用開始日 : 平成 12 年 1 月 7 日 (金)
2. 接続先 : webfront.nacsis.ac.jp
3. 起動方法 :

変更後の REQUEST 機能の利用承認処理 (IRLINK) の起動方法 (は空白を表します)

>>telnet	telnet 経由で接続
Welcome to NACSIS-IR System	
login:	大文字で入力 (共通)
Password:	大文字で入力 (共通, ただし非表示)
NIHONGO Character Code Set	
1. euc 2. jis 3. sjis 4. quit	
Please select number==>	
1	利用端末の使用文字コードを選択
NACSIS-CAT/ILL 管理用利用番号を入力してください。	
(アルファベットは、すべて大文字です。)	
login:XXXXXXXX	CAT/ILL システムの管理者用 ID を入力
Password:XXXXXXXX	管理者用パスワードを入力 (非表示)
ENTER COMMAND (AD/DE/MO/LI/Q/?) :LI	起動後の操作は従来どおり
:	

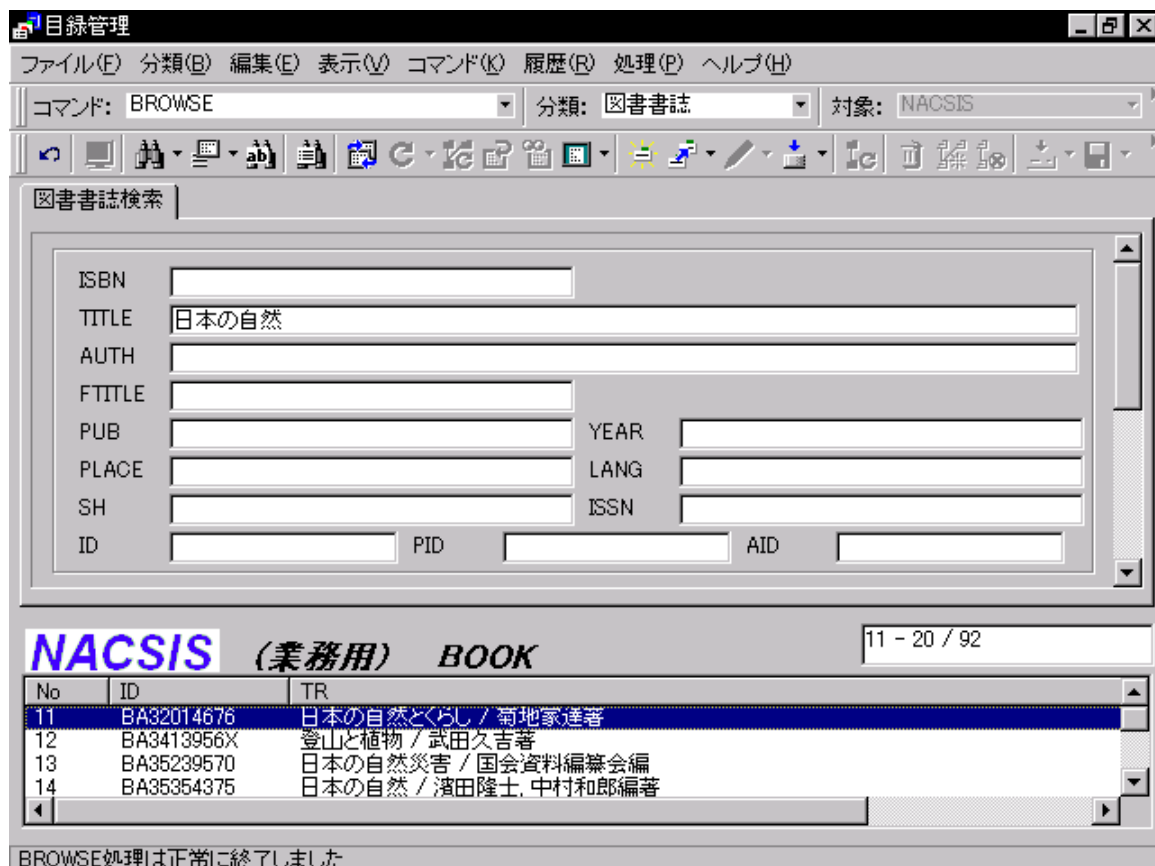
(相互協力係)

新システム対応クライアント紹介 (その6)

連載第6回目の本号では、(株)リコーの「LIMEDIO」を紹介します。

(概要)

- (1) クライアント名称： LIMEDIO (リメディオ)
- (2) 開発： 株式会社リコー
- (3) クライアントの種類： 総合クライアント
- (4) 動作環境： Microsoft Windows NT
- (5) 運用開始： 平成 11 年 9 月 (CAT のみ。ILL は平成 12 年 3 月予定)
- (6) 利用図書館 (業務利用を開始している館)： 山梨学院大学
- (7) 画面例：



(8) 特徴：

- ・ XUIP の画面遷移を継承し、コマンド名も従来のものを踏襲している。
- ・ ファイルの種類毎にインデックスカードから選択し、業務を行う。

- ・各画面ごとに使用可能なボタンが配置されており，それ以外にもコマンドを直接入力できるフィールドがある。
- ・各画面の表示項目，項目名をカスタマイズ可能である。
- ・各画面で大きな文字，小さな文字の2種類の表示が可能である。
- ・雑誌誌名変遷マップを表示することができる。(下図参照)

目録管理
ファイル(F) 分類(B) 編集(E) 表示(V) コマンド(K) 履歴(R) 処理(P) ヘルプ(H)
コマンド: LOO F 分類: 雑誌書誌 対象: NACSIS

雑誌書誌検索 | 雑誌書誌詳細 | 誌名変遷マップ

AN00076768 継続 AN0022545X 継続 AN00225438
AN00121024 継続 AN00225471 継続 AN00411443 派生 AN010133766 継続

NACSIS (業務用) SERIAL 1 - 8 / 8

No	ID	TR	VLYR
1	AN00076768	研究論集 / 信州大学教育学部	No. 1 (1951)-no. 7 [(1956)]
2	AN00121024	信州大学紀要 第2輯, 教育学部...	1巻1号 (昭26. 7)-3号 (昭28. 5)
3	AN001210...	信州大学教育学部紀要 / 信州大...	9号 (1960.1)-

LOOKUP処理は正常に終了しました

注意事項

- ・各クライアントは，新システムクライアントの特徴である図書館システムとの連携機能を持ちますが，各図書館の仕様に依りて変更が加えられることがありますので，本連載では扱いません。
- ・検索項目，レコード表示仕様，検索対象ファイル等については，各利用者が設定できる場合が多いようですので，この部分についても言及していません。
- ・紹介するクライアントは，変更が加えられる場合もありますので，最新の情報については，各メーカーにお問い合わせください。

各メーカーの新システム対応クライアントの開発状況及び問い合わせ先は，以下の URL に常時掲載していますので，参考にしてください。

URL: <http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/INFO/newcat/ncat-maker.html>

(図書目録情報係)

(白)

総合目録データベースの品質管理事例集（その4：雑誌編2）

品質管理事例集，雑誌編の2回目は，雑誌所蔵レコードについて取り上げます。

この事例集の中では，次のような略称で参照先の資料を示します。

基準 3	目録情報の基準．第3版
検索編 4	目録システム利用マニュアル．検索編．第4版
登録編 4	目録システム利用マニュアル．登録編．第4版
CM	目録システムコーディングマニュアル
抜刷集	オンライン・システムニュースレター抜刷集
NL	オンライン・システムニュースレター

2. 所蔵レコード

所蔵データを登録しようとして、巻次・年次の記述方法に悩む場合があります。そういった場合の判断方法について、事例を挙げて解説します。

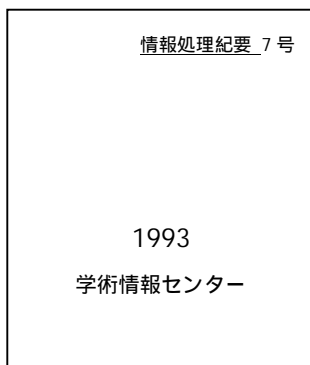
参加館の固有レコードである所蔵レコードは、各館の責任において登録・修正等を行っていただくものです。特に雑誌の場合は、所蔵データの記述が間違っていると、所蔵状況を正しく把握できない等、相互貸借（ILL）業務に様々な支障をきたしてしまいます。正しく記述するよう注意してください。

(1) 巻次が2つ以上ある場合 - 優先すべき巻次は？

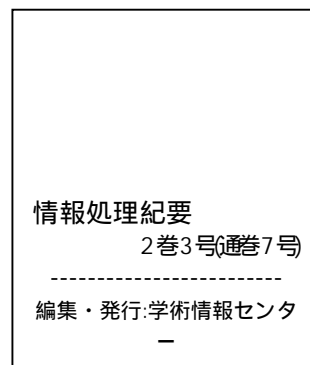
Q 登録しようとする雑誌に巻次が複数あり、どれで所蔵を表現すればいいのかわからない。

【例】

所蔵号の表紙



所蔵号の奥付



A 所蔵レコードの巻次の記述は、書誌レコードの巻次・年月次(VLYR)フィールドの記述に一致させるのが原則です。よって、資料に複数の巻次がある場合は、書誌レコードの巻次・年月次(VLYR)フィールドで優先して記述されている方を選んで所蔵を表現してください(CM17.2.2 D9.1 参照)。

この場合は、「2巻3号」と「通巻7号」の2つの巻次がありますが、書誌レコードでは、通巻より2階層の巻次表示(1巻1号)を優先採用していますので、所蔵も「所蔵巻次(HLV):2(3)」と記入することになります。

(書誌レコード例)

```
<AN*****1>
GMD: SMD: YEAR:1993 CNTRY: ja TTLL: jpn TXTL: jpn
ORGL:
PSTAT: c   FREQ: m   REGL: r   TYPE: p
TR: 情報処理紀要||ジヨウリ ショリ キヨウ
VLYR: 1巻1号 (1993)- = 通巻1号 (1993)-
PUB: 東京 : 学術情報センター, 1993-
PHYS: 冊 ; 21cm
```

(所蔵レコード例)

```
<CA*****1>
HLVR: 1993-1993
HLV: 2(3)
```


書誌レコードが初号に基づいて作成されていない場合等は、巻次・年月次(VLYR)フィールドにデータがありません。決められたルール(CM17.2.2 D9.2 参照)に従って、どちらの巻次表示が優先されるか判断してください。この際、その巻次の書かれている情報源箇所での優先順位はありません。

関連規則及び関連事例

・複数の巻次表示方式がある場合

- 同時に異なる表示形式による巻次が存在する場合は、VLYR フィールドで優先採用した表示方式で所蔵巻次を記入し、VLYR フィールドにイコール以下に記入した別方式や VLYR フィールドに記入しなかった方式による巻次表示方式では記入しない。(CM 17.2.2 D9.1)
- 以下に、表示方式に対する優先採用の基準を示す。VLYR フィールドに記入が存在しない場合は、本基準に従って複数の表示方式間の優先順位を判定する。
 - (1) その雑誌固有の巻次表示は他の雑誌と共有する巻次表示より優先
 - (2) 変遷後に付与された巻次表示は変遷前誌から引き継いだ巻次表示より優先
 - (3) 2 階層の巻次表示は 1 階層の巻次表示より優先 (CM 17.2.2 D9.2)

・巻レベル・号レベル

- 記入方式は、実際に目録対象資料上に表示されている表現にかかわらず、巻レベル・号レベルの 2 階層によるものとする。(中略)
- 雑誌の個々の出版物理単位それぞれを識別・順序付けするための記号に対し、何が巻レベル・号レベルに相当するかを一般的に定義することは困難である。そこで、ここでは目録対象資料上の上の実際の表現に対して記入する上で、「巻レベル」(丸括弧に収めずに記入する)・「号レベル」(丸括弧に収めて記入する)として扱うものの具体例を示すことによって定義に代える。

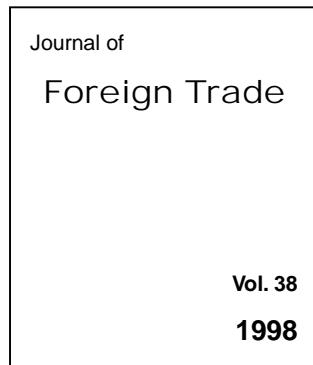
目録対象資料上での実際の表現 (対応する日本語表現)		記入上でのレベル	
		巻レベル	号レベル
1 階層	号*1 通号 / 号 巻 年次	号 通号*2 巻 年次	- - - -
2 階層	号 - 分冊 巻 - 号*1 巻 - 号 / 通号 巻 - 月次 巻 - 分冊 年次 - 月次 年次 - 号*1	号 巻 巻 巻 巻 年次 年次	分冊 号 号 月次 分冊 月次 号
3 階層	巻 - 号*1 - 分冊	巻	号*3

- *1 表示上あるいは実質上、通号である場合を含みます。
- *2 通号が変遷前誌から引き継いだものであり、号のほうがその雑誌固有の巻次である場合は、号を採用してください。
- *3 号レベル以下のものが全部揃っていない場合、その号レベルは欠号扱いとします。
(CM 17.2.2 D7.1)

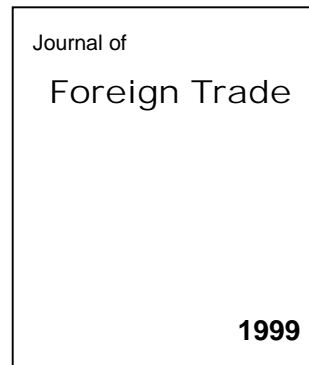
(2) 巻次変更 - 途中で巻号表示が消えてしまったら？

Q 「Journal of foreign trade」の巻号表示が，1999 年から消えてしまった。今後，どのように所蔵を記述すればよいか。

1998 年終号表紙



1999 年初号表紙



(書誌レコード)

```
<AA*****2>
GMD: SMD: YEAR:1961 CNTRY:us TTL:eng TXTL:eng
ORGL:
PSTAT:c  FREQ:a  REGL:r  TYPE:p
TR:Journal of foreign trade
VLYR:Vol. 1 (1961)-
PUB:New York : Chamber , 1961-
```

A Vol.の巻号表示がなくなったので，1999 年以降は，年次を巻次に代用せざるをえません。従って，巻次変更となります。巻次変更の場合は，巻次変更の位置にセミコロン「;」を挿入し，巻次変更前後の巻次表示を列記します(CM17.2.2 参照)。

この場合は，「所蔵巻次(HLV):38;1999」「所蔵年次(HLV):1998-1998;1999-1999」と記述してください。

また，書誌レコードの巻次・年月次(VLYR)のデータも修正してください。

(書誌レコード例)

```
<AA*****2>
GMD: SMD: YEAR:1961 CNTRY:us TTL:eng TXTL:eng
ORGL:
PSTAT:c  FREQ:a  REGL:r  TYPE:p
TR:Journal of foreign trade
VLYR:Vol. 1 (1961)-v. 38 (1998) ; 1999 (1999)-
PUB:New York : Chamber , 1961-
```

(所蔵レコード例)

```
<CA*****2>
HLVR:1998-1998;1999-1999
HLV:38;1999
```

関連規則及び関連事例

・データの記入及び記入例

- 所蔵範囲内で巻次変更がある場合は、巻次変更の位置にセミコロン「;」を挿入し、当初の巻次表示をとっていた期間での所蔵巻次データと、新方式の巻次表示方式による期間での所蔵巻次データを列記する。(CM 17.2.2 D4)
- 巻次変更のセミコロンの位置は、当該書誌の VLYR フィールドでの位置と対応させる。ただし、所蔵範囲外での巻次変更の事実については記入しない。(CM 17.2.2 D5)

・巻次変更の判定基準

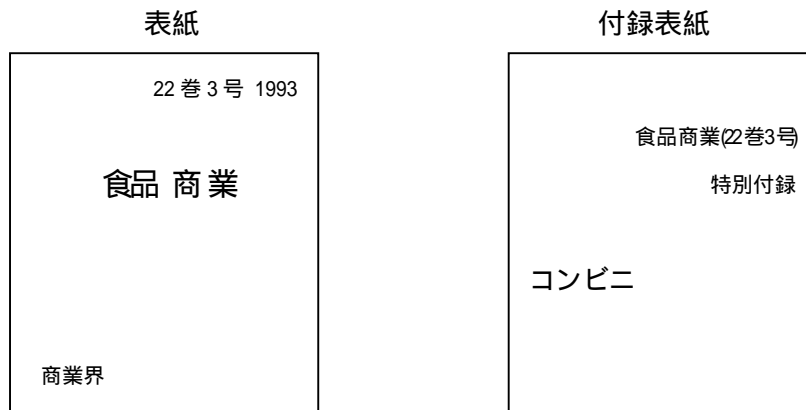
- 以下に、所蔵データ記入にあたって巻次変更扱いとみなす基準を示す。
 - (1) 従来の巻次表示方式よりも優先順位が上位の巻次表示方式が出現した場合
 - (2) 複数存在した巻次表示方式のうち、当初採用した巻次表示方式が表示されなくなったために、順位がより下位であった巻次表示方式を繰り上げ採用する場合
 - (3) 巻次の数値が後退あるいは反復、若しくは極端に飛躍する場合(単なる誤植を除く)なお、巻次変更と判定した場合、対応する書誌レコードの VLYR フィールドにその記述が存在していないときには、必要な記述を行う。(CM 17.2.2 D10)

・巻次がない場合

- 巻次の表示が全く現れない場合は、年月次を代用して記録する。
()に年月次を重ねる記述文法は NACSIS 独自規定である。(途中で巻次が消滅した場合には、巻次変更の扱いを要す)(CM 7.2.3 F2.5)

(3) 補遺資料の取扱い - 所蔵をどう書く？

Q 継続受入している雑誌に「特別付録」がついてきた。「特別付録」はたまにしか刊行されないようだ。この場合、この「特別付録」の所蔵は、どのように記入したらよいか？
「#」記号を使って表現してもよいか？



A 別冊・付録等の補遺資料の扱いは、次のようになります。

独自の巻号のある場合 => 別書誌を作成し所蔵登録する

独自の巻号のない場合 => 本体へ注記する

この場合は、刊行の継続性も不確かで独自の巻号を持っていないため、「特別付録」だけで別書誌は作成できません。しがたって、所蔵は本体部分を表す「**所蔵巻次(HLV):22(3)**」のみ、特別付録については、書誌レコードの注記でその存在を明示することにとどめます。

(書誌レコード例)

```
<AN*****3>
GMD:SMD: YEAR:19-- CTRY:ja TTLL:jpn TXTL:jpn
ORGL:
PSTAT:c  FREQ:m  REGL:r  TYPE:p
TR:食品商業||ｼﾞｮｸﾞﾝ ｼﾞｮｷﾞ ｻﾞ
VLYR:
PUB:東京 : 商業界
PHYS:冊 ; 21cm
NOTE:記述は22巻3号 (1993)による
NOTE:22巻3号には「特別付録コンビニ」あり
```

(所蔵レコード例)

```
<CA*****3>
HLYR:1993-1993
HLV:22(3)
```

以前、別冊・補遺資料の所蔵を表す記号として「#」を使用していた時期もありますが、かえって誤解を生じやすいことから、使用しないこととなりました。

付録補遺資料については、別書誌レコードとしない限り、それ単独の所蔵は表現できませんので、書誌レコードの注記で補足するようにしてください。

関連規則及び関連事例

・ HLV(所蔵巻次データ)記入に関する注意事項

- アラビア数字，ハイフン(-)，コンマ(,)，丸括弧(())及びアスタリスク(*)以外のデータは記入できない。シャープ(#)は不使用とする。(CM 17.2.2.E1)

・ 独自の巻号付けを持たない索引・付録・補遺資料についての注記

- 本体とは別の独自の巻号付けを持たない索引・付録・補遺資料(別冊・増刊など)について記録する。(CM 6.2.7.F3.16)

・ 付録・補遺資料の登録

- 同一の本タイトルであっても，本体とは別の独自の巻号付けを持つ付録・補遺資料(別冊，増刊など)の場合は，本体と別の新規レコードを作成する。(CM 0.4.3.B4)
- なんらかの逐次刊行物の「別冊」・「増刊」であっても，巻次・年月次を持たないものは所蔵データが記入できませんので，雑誌ファイルではなく，図書ファイルに登録してください。(抜刷集 1.2.1 B))

(雑誌目録情報係)

(白)

複写データ処理センター業務報告（平成 11 年度上半期）

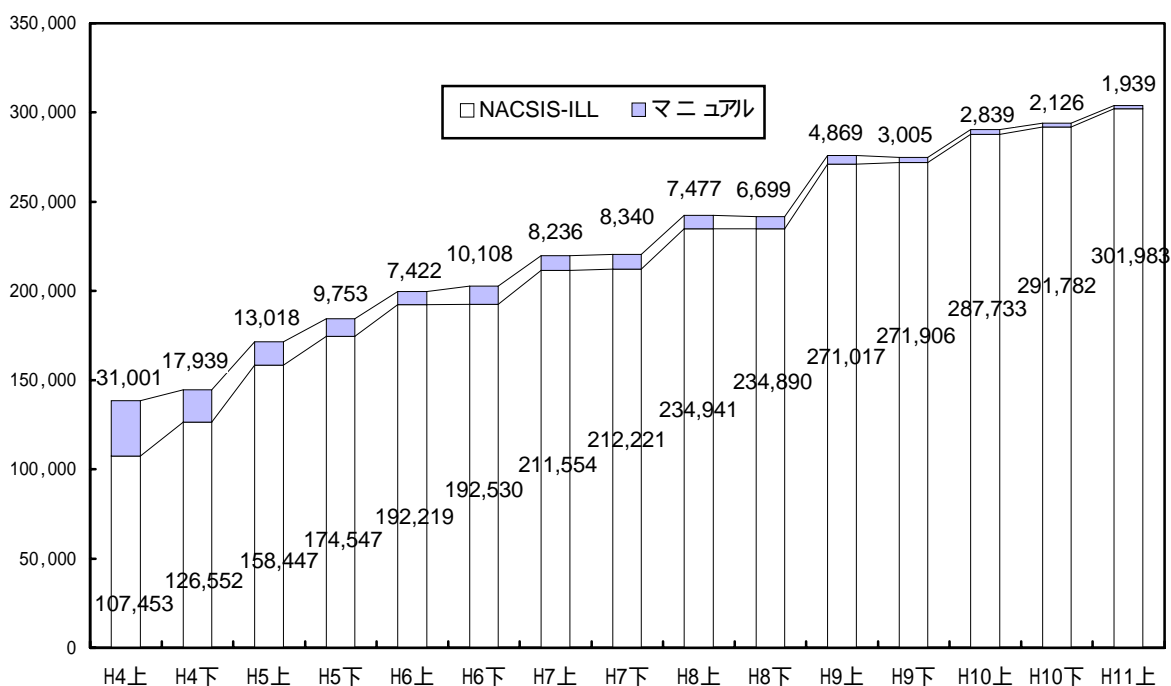
「国立大学等図書館の文献複写について」(文学情第 239 号 平成 11 年 3 月 31 日)に基づき、平成 11 年 9 月 30 日(木)の業務終了時点のデータを元に、文献複写経費のデータ処理を行いました。

処理の対象に大学共同利用機関が加わり、支払区分が 5 種類に増えるなど、平成 11 年度上半期には大きな変化がありました。

処理件数においては、引き続きマニュアル処理の割合が減少しています。今後も NACSIS-ILL の普及に努めますので、各図書館の相互貸借業務も、マニュアル処理から NACSIS-ILL 処理へ移行していただきますよう御協力をお願いします。

単位：件（カッコ内は前期比）

平成 11 年度上半期		マニュアル（依頼書）	NACSIS-ILL	合計
		1,939（-187）	301,983（+10,201）	303,922（+10,014）
内訳	大学	709（-121）	292,268（+4,830）	292,977（+4,709）
	短期大学	1（0）	323（-58）	324（-58）
	高等専門学校	1,123（-172）	5,712（+1,749）	6,835（+1,577）
	共同利用機関	106（+106）	3,680（+3,680）	3,786（+3,786）



(相互協力係)

NACSIS-ILL ユーザー会の料金相殺処理報告 (平成 11 年度上半期)

「文献複写・現物貸借料金相殺のための NACSIS-ILL ユーザー会会則」(平成 8 年 10 月 1 日一部改正) 第 5 条に基づき、平成 11 年 9 月 30 日(木)の業務終了時点のデータを元に、文献複写及び現物貸借経費のデータ処理を行いました。

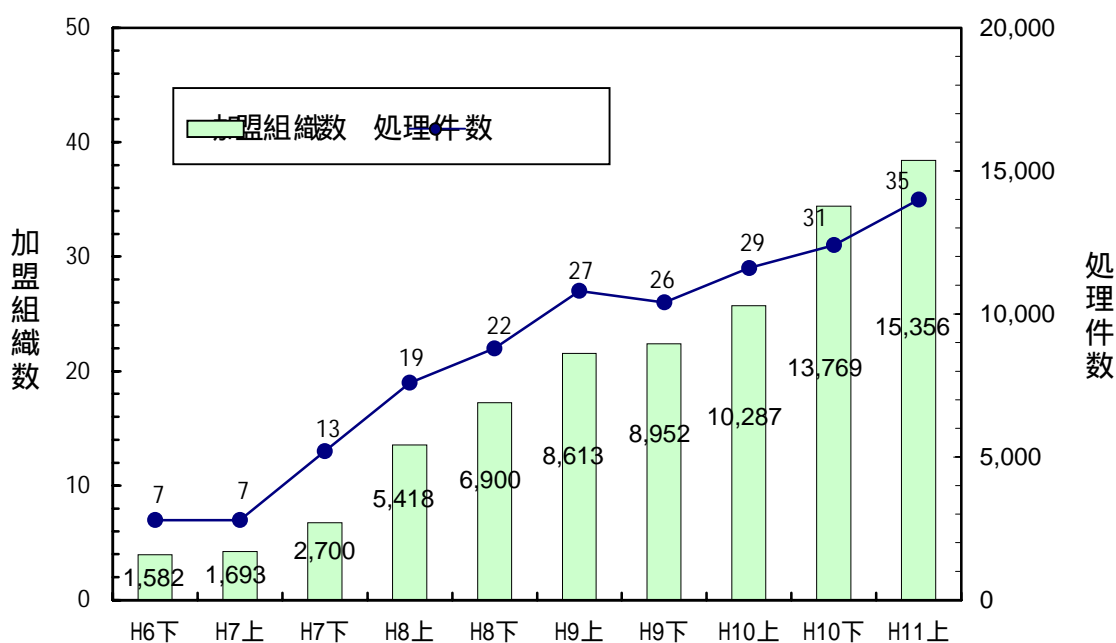
NACSIS-ILL ユーザー会は、複写料金等の支払処理の合理化を目的として平成 6 年に設立されたものです。平成 11 年 9 月 30 日現在で、公私立大学を中心に 30 機関 35 組織が加盟しており、下のグラフに示すように、加盟組織数・処理件数とも年々増加を続けています。

入会方法等、NACSIS-ILL ユーザー会については、下記 URL を参照してください。

URL : <http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/INFO/ILL/userkai.html>

単位：件 (カッコ内は前期比)

平成 11 年度上半期	複写	貸借	合計
	15,302 (+1,575)	54 (+12)	15,356 (+1,587)



加盟組織数及び処理件数の推移

(相互協力係)

所蔵レコード付替え処理について

現在、重複書誌レコードの発生による所蔵レコードの付替え依頼を FAX 及び本誌掲載記事「レコード調整」によって行っています。しかし、連絡後かなりの時間が経過しても所蔵レコードの付替えが終了しないために、削除できないままとなっている書誌レコードが多く、別の参加組織が誤って所蔵レコードをリンクしてしまうといった事態が発生しています。

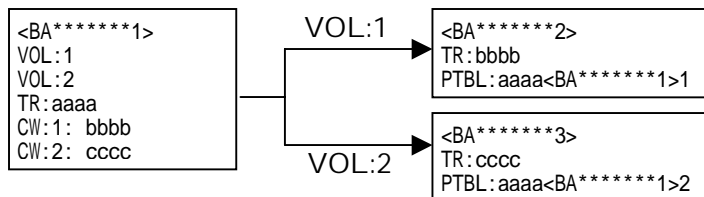
学術情報センターでは、重複書誌レコードと判断されたものを処理するために、重複レコード処理プログラムを使用しています。(抜刷集「2.5.2 重複レコード処理のしくみ」)

このプログラムは、削除側書誌レコードにリンクしている所蔵レコードを機械的に付替先書誌レコードに付け替えるとともに、削除側書誌レコードを削除する処理を行います(この処理結果については、年に1度、所蔵館に対して連絡しています)

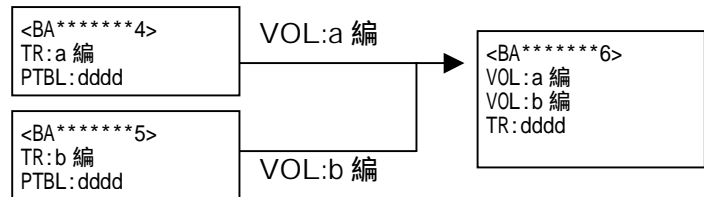
しかし、機械的な処理ができないものについては、所蔵館が少ないものは FAX で、所蔵館数が多いものは本誌掲載記事「レコード調整」で所蔵レコードの付替えを依頼しています。

機械的な処理ができないものとして、次のようなパターンのものがあります。

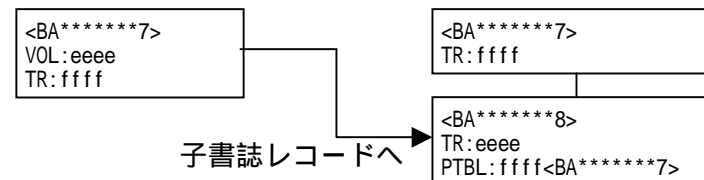
- (1) 所蔵レコードを分割する必要があるもの。



- (2) 所蔵レコードを統合する必要があるもの。



- (3) 削除側書誌レコードを削除することができないもの(親書誌レコードの所蔵レコードを子書誌レコードに付替えるもの)



総合目録データベースの品質維持のために、所蔵レコード付替えを依頼した際には、できるだけ早めに、現物を確認の上、総合目録データベースの所蔵レコードを修正するとともに、各図書館の目録データの修正をしていただくようお願いします。

(図書目録情報係)

会議開催報告

平成 11 年度第 1 回 総合目録小委員会

[日時]

平成 11 年 11 月 4 日 (木) 10:00 ~ 12:00

[議事]

1. 総合目録データベースにおける電子ジャーナルの取扱いについて
2. 総合目録データベースにおける稀覯本の取扱いについて
3. オンデマンド出版物の取扱いについて
4. 中国書コーディングマニュアル及び中国書 MARC 流用時の注意について
5. 韓国・朝鮮語資料データベース化ワーキンググループの設置について
6. 総合目録小委員会 (平成 11 年度) 付託事項分担について
7. その他

総合目録小委員会には、総合目録委員会から以下の事項の検討が付託されている。

1. 多言語対応目録システムの運用について
「目録情報の基準」、「コーディングマニュアル」への反映
CHINA/MARC 変換データの確認
中国語/UCS クライアントの試用
多言語テストサーバでのデータ移行確認
韓国・朝鮮語資料の取扱いの検討
2. 目録情報の入力基準について
 - (1) ネットワーク上の情報資源の取扱いについて
 - (2) コーディングマニュアルの整備について
和古書・漢籍の取扱いについて
著者名典拠レコード (日本名以外: 個人名)
図書書誌レコード (親書誌)
3. ILL システムの運用について
依頼・受付情報の記述の整備統一化
Webcat 用参加組織情報の整備

付託された各事項について、今後は各項目の作業班に分かれて、原案の作成と検討を進めることとした。

(図書目録情報係)

「オンライン・システムニュースレター」最終号について (予告)

平成 12 年 4 月の学術情報センターの改組を期に、本誌は装いを新たにす予定で、「オンライン・システムニュースレター」としての刊行は、次号 No.70 (平成 12 年 2 月下旬刊行予定) をもって最後となります。

最終号では、目録所在情報サービスに関する特集を予定しています。